

# 第3回日中知事省長フォーラム (第9次日中知事省長交流)の概要

〔中国省長訪日代表団の滞在記録〕

日程 平成30年(2018年)5月9日(水)～5月13日(日)

全 国 知 事 会

## 目次

I	滞在日程 .....	1
II	第3回日中知事省長フォーラム	
	1. プレゼンテーション及び意見交換 .....	1
	2. レセプション .....	34

## I 滞在日程

- 5月 9日（水） 第9次中国省長訪日代表团 来日  
5月10日（木） 北海道知事主催レセプション(於：札幌パークホテル)  
5月11日（金） 第3回日中知事省長フォーラム(於：札幌パークホテル)  
                  歓迎レセプション(於：札幌パークホテル)  
5月12日（土） 北海道内視察  
5月13日（日） 第9次中国省長訪日代表团 帰国

## II 第3回日中知事省長フォーラム

### 1. プレゼンテーション及び意見交換

【日 時】平成30年5月11日(金) 9：35～12：00

【場 所】札幌パークホテル3階「パークホール（B・C）」

【参加者】（日本側）

上田 清司 全国知事会会長（埼玉県知事）  
高橋 はるみ 北海道知事  
達増 拓也 岩手県知事  
吉村 美栄子 山形県知事  
川勝 平太 静岡県知事  
石井 隆一 富山県知事  
平井 伸治 鳥取県知事  
古尾谷 光男 全国知事会事務総長

（中国側）

李小林（りしょうりん）中国人民对外友好協会会長  
尹力（いんりき）四川省省長  
許勤（きよきん）河北省省長  
唐一軍（とういちぐん）遼寧省省長  
王文涛（おうぶんとう）黒竜江省代理省長  
呉忠琼（ごちゅうぎょう）江西省副省長

## ○司会

それでは皆様、ご来賓の方々及び両国知事、省長がご入場なさいます。どうぞ皆様、ご起立の上、盛大な拍手でお迎えてください。（拍手）

皆様、ご起立のままいましばらくお待ちくださいますようお願いをいたします。

皆様、お待たせいたしました。どうぞ盛大な拍手でお迎えてくださいませ。（拍手）

それでは、ただいまから日中知事省長フォーラムを開催いたします。

初めに、上田清司全国知事会会長よりご挨拶とともに参加知事のご紹介をお願いいたします。

## ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

ただいまご紹介いただきました全国知事会会長の上田清司でございます。

今日は李小林中国人民对外友好協会会長を初め中国各省の代表の皆様には第3回日中知事省長フォーラムにご出席をいただきまことにありがとうございます。全国知事会を代表して、心から御礼を申し上げます。

また、本日は李克強中華人民共和国国務院総理、また安倍総理にもご来賓としてお招きする機会をいただきこのようにご出席をいただいたこと、まことに光栄であります。本当にありがとうございます。

今回の開催に当たりまして、ご尽力いただきました中国人民对外友好協会及び中日友好協会の皆様に心から感謝と敬意を申し上げます。そして、この場を設営いただきました高橋はるみ北海道知事にも御礼を申し上げます。

本日は日中間の両総理の立ち会いのもとにフォーラムが開催できること、まことに有意義であり大変光栄に重ねて申し上げます。

今年は日中平和友好条約の締結から40年の節目の年であります。私は、一昨年北京を訪問したときに習近平主席の心にしみる言葉を大変感銘深く受けとめました。それは2つあります。

1つは、日中友好の井戸を掘った人たちの名前を10名近く上げられたことあります。10人のかつてまだまだ日中のパイプが細い時代に多く扉を開いていたそれぞれの日本人の努力に対して感謝を述べられ、そしてまたそうした人たちによって今日があるということをおられました。まさに友情と友好の積み重ねを大事にしている主席だなということを感じました。

もう一つは、中国と日本はその国は引越しができない、動かすことができない。ならば、私たちは仲よくしていこうとこういってお話をなさいました。大変心にしみる言葉で、私にとりまして一生残る言葉でありました。

一つ一つの友好や交流を通じて、日中がさらに大きな世界での役割、アジアでの役割を果たすことができるよう、私たちは地方という単位でありますけれども地域間の交流を通じてお互いに友情を重ね、理解を重ね、実りのある実績を重ねてこれからもしっかりと国を支えていきたいと考えております。これからも皆様のお力とそしてまた友情を重ねて、心からお願い申し上げますご挨拶にかえた

いと思います。本日はまことにありがとうございます。（拍手）

日本側の参加知事の皆様を私からご紹介を申し上げます。

高橋はるみ北海道知事でございます。（拍手）

達増拓也岩手県知事です。（拍手）

吉村美栄子山形県知事です。（拍手）

川勝平太静岡県知事です。（拍手）

石井隆一富山県知事です。（拍手）

平井伸治鳥取県知事です。（拍手）

以上です。ありがとうございました。

## ○司会

ありがとうございました。

続きまして、このたびの中国省長訪日団を代表いたしまして、団長の李小林中国人民对外友好協会会長よりご挨拶とともに参加省長のご紹介をお願いいたします。

## ○李小林中国人民对外友好協会会長

尊敬する李克強総理、尊敬する安倍首相、各省長・知事の皆様、ご来賓の皆様おはようございます。

私は、今日、上田会長と一緒に第3回中日省長知事フォーラムを主催することをうれしく思います。私は、中国人民对外友好協会、中日友好協会を代表しまして李克強総理と安倍首相のご臨席に対し、心から感謝を申し上げます。中日両国の省長、知事様のご出席を歓迎いたします。

そして、今回のフォーラムの開催に多大なご尽力をしてくださいました日本全国知事会、北海道庁、日本外務省、中国外交部、中日大使館、札幌総領事館などの皆様に心からお礼を申し上げます。

それでは、今回の中国の出席者を紹介したいと思います。

河北省省長、許勤さん。（拍手）

四川省省長、尹力さん。（拍手）

遼寧省省長、唐一軍さん。（拍手）

黒竜江省代理省長、王文涛さん。（拍手）

江西省副省長、呉忠琼女史。（拍手）

皆様、友人の皆様、私は中国政府の依頼を受けまして中国人民对外友好協会が友好都市間を管理する仕事をしております。73年に天津と神戸が第1の友好都市関係を締結以来、現在251組の友好関係を結んでおります。このフォーラムは、2012年と2014年に東京と北京で成功裡に開催し、双方で数十名の省長、知事様が出席し、交流の拡大、理解の増進、協力の展開について深く議論し、多くの共通認識に達してありまして、そして協力を促進してまいりました。このフォーラムは、中日地方交流の最高のプラットフォームとしまして両国の地方経済の発展のみならず中日関係の健全な発展、安定にも非常によい役割を果たし

てまいりました。

今年は中日友好条約・平和条約締結40周年、また中国改革開放40周年、両国友好都市交流45周年でもあります。両国の関係をさらに改善、発展させる重要な時期に来ております。今日、李克強総理そして安倍総理がこのフォーラムに出席していただきまして、両国の政府が地方の交流を非常に重視していることのアラわれでありまして、それによりまして両国の地方のさらなる交流の深化に励まされるに違いありません。今回のフォーラムで両国の知事省長様が今回のテーマである平和、友好をさらに発展させ、地方協力を深化させるというテーマについて深く議論し、そして貴重な意見や提案を出していただけたらと思います。ともに努力すれば、今回のフォーラムは必ず成果を上げることができます。ありがとうございました。（拍手）

## ○司会

ありがとうございました。

それでは、ここで開催地であります北海道の高橋知事より歓迎のご挨拶を申し上げます。

## ○高橋はるみ北海道知事

皆様、ようこそ北海道へ。北海道知事の高橋はるみでございます。

日中平和友好条約締結40周年という記念すべき今年、ここ北海道において日中知事省長フォーラムが開催され、ご来賓として李克強総理、安倍総理、そして中国から中国人民対外友好協会の李小林会長、省長の皆様方、そして日本全国知事会の上田会長を初めとする日本の知事の皆様方にお越しをいただいたことは、開催地の知事として光栄のきわみでございます。

私たち北海道は、黒竜江省、遼寧省を初め中国各地域との友好を育んでまいった立場であります。そうした北海道民を代表して、皆様方のご来道を心からご歓迎を申し上げます。

さて、今日、本道に多くの外国人観光客をお迎えしている中で、とりわけ中国から最も多くの皆様方に訪れていただいているところでございます。特に春節の時期にはさっぽろ雪まつりといったイベントやパウダースノーに包まれたスキーリゾート、旬の海産物、農産物など北海道の冬の魅力をお楽しみをいただいているところであります。

本日のこのフォーラムを契機として、両国の強い信頼関係のもと相互の地域間交流がさらに深まり、日中関係が今後ますます発展していくことを心からご期待を申し上げますとともに、本日お集まりの皆様方のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げ、開催地知事としての歓迎のご挨拶とさせていただきます。（拍手）

## ○司会

高橋知事より歓迎のご挨拶を申し上げます。

それでは、ここで本日のご来賓のお二方からご挨拶をいただきたいと存じま

す。

初めに、安倍晋三内閣総理大臣からご挨拶を頂戴いたします。

### ○安倍晋三内閣総理大臣

ダージャーハオ。内閣総理大臣の安倍晋三でございます。（拍手）

本日は、第3回日中知事省長フォーラムにお招きをいただきましてまことにありがとうございます。

まず、今回のフォーラムが李克強國務院総理のご出席を得て盛大に開催されることを心からお祝い申し上げます。全国知事会会長を務める上田清司埼玉県知事及び李小林中国人民対外友好協会会長の開催に向けたご尽力に敬意を表します。

また、本日のフォーラムには中国の四川省、河北省、遼寧省、黒竜江省、江西省から省長や副省長の方々が参加されていると承知をしております。皆様のご来日を心から歓迎いたします。

日本から出席する北海道、岩手県、山形県、埼玉県、静岡県、富山県、鳥取県の知事の皆様とともに行われる本日の意見交換が実りあるものとなることを期待しております。そして、李総理の北海道訪問に対し大変すばらしいおもてなしをされている高橋はるみ知事にも私から心から感謝申し上げたいと思います。

私も北海道に来るのをいつも楽しみにしておりますが、昨年736万人の方々が訪日した中国の方々にもここ北海道は特に人気の高い目的地となっています。2008年に北海道を舞台として大ヒットした中国映画「狙った恋の落とし方。」、大変題名もいいと思います。少し若い時代のことも思い出すわけですが、この映画は中国の若者の北海道ブームの火つけ役になったと伺っております。このことは、地方交流を活性化していく上で大きなヒントを与えてくれます。

日中両国の友好都市交流は国交正常化直後の1973年の神戸市と天津市の友好都市提携に始まり、現在ではその数は360組を超えています。地方交流は日中関係がどのような状況にあるときでも常に友好の源として両国のきずなを途切れることなくしっかりとつなぎとめ、一つの世代から次の世代へと受け継がれてきました。

本日のフォーラムでは、両国を取り巻く新たな情勢のもとで今後の地方交流のあり方について議論されると伺っております。特に、両国がともに直面している深刻な課題である少子高齢化を克服するためには地方の活性化が不可欠です。私も地方創生を最重要政策として掲げ、地方の雇用創出、出生率の向上等に努めてまいりました。李総理も河南省、遼寧省での経験も生かされ、貧困脱却を初め中国全土の均衡のとれた発展にご尽力されていると伺っております。日中両国がお互いの経験を参考にしながら、地方の経済振興、観光振興あるいは強靱な社会づくりのためともに知恵を出し合い、有効な対策を講じていく。大切なことは、両国の戦略的互惠関係を目に見える形で実行に移すことであると思います。

例えば、日本の医療・介護に関するノウハウと中国のドローン技術をマッチングすることで過疎地の医療・介護サービスの向上や人出不足の解消を実践できな

いか。両国の協力の可能性は大きく広がっていると言えます。本日はぜひ皆様の英知を結集して、日中両国の地方交流、地方協力の新たな形について活発な議論を行っていただきたいと思います。

最後に、常日ごろから両国の地方交流の第一線でご尽力いただいているご臨席の皆様へ深い敬意と感謝を申し上げますとともに、本日のフォーラムのご成功を心からお祈り申し上げます。シェイシェイ、ダージャー。ありがとうございました。（拍手）

## ○司会

ありがとうございました。

次に、李克強國務院総理からご挨拶を頂戴したいと存じます。

## ○李克強中華人民共和国國務院総理

知事、省長の皆さん、ご列席の皆様、今回は安倍総理とともに第3回中日省長知事フォーラムに出席できましてうれしく思っております。

今回の会議は札幌で開催されておりますが、皆さんが一堂に集まり、中日地方発展の事業について語り合うことは、現在の新しい情勢においてはチャンスをつかえているというふうに思います。本フォーラムの開催にお祝いを申し上げ、そしてその成功をあらかじめお祈りしたいと思います。

中日両国は互いに重要な隣国であり、両国関係が平和・友好・協力的に発展することは両国だけでなく地域、世界にとっても利益になります。本年は中日平和友好条約締結40周年に当たります。まさにこのようなタイミングで、私が安倍総理の招請に応じ日本を公式訪問いたしました。その目的は、締約の精神に立ち戻って締約の原則に基づいて中日関係を再び正常な軌道に戻すためであり、そしてさらにそれを新たに発展させ、長期的、安定的に発展させていきたいと思っております。これは両国の地方交流にも幅広い可能性をもたらし、有利な条件を整えると思っております。

安倍晋三首相と会談をするとき、またともに立ち会いをしました幾つかの協定の調印からいっても、今回の協力は豊かな成果が上げられたというふうに思います。詳しくはご紹介しませんが、3つの方面だけご紹介したいと思います。それは両国だけでなく、両国の地方にとっても有利ですから。

1つ目は、イノベーションの発展における協力であります。私は、安倍総理との間には中日双方がイノベーションに関する対話を行い、そのためのメカニズムを立ち上げることに合意しました。将来的にそのメカニズムが立ち上げられたら徐々にそれによって両国の先端技術分野、また経済や社会、民生の需要に適應する分野における技術協力が推進されると思われ、またそれによっても知的財産権の保護も推進されると思っております。先ほど安倍総理から日本には高齢化の問題があるというふうにおっしゃいましたが、しかし日本には医療・介護、医療器械などにおいてはもちろん、ロボットの運用・応用分野においても非常に先進的な技術と経験があります。ぜひ中国側としても、日本側とこの分野において協力をしたいと



いうふうに思います。

本日参加した一部の省には、人口の発展が不均衡問題に直面し、あるいは高齢化問題に直面している地域もありまして、それらの分野だけでなく、多くの多岐にわたる分野において科学技術のイノベーション協力ができるのではないかと思います。

2つ目というのが、我々の間には第三国の市場の開拓を一緒に行うことについても合意をしました。中日の経済は高度な相互補完的關係であり、我々の間の協力によって双方の市場において相互補完になるだけでなく、もし第三国の市場を一緒に開拓すれば強みを合わせ不合理あるいは悪質な競争も回避でき、さらに協力するというより強い競争力が形成されます。すると、その分野においてはハイエンドの製造業の協力が求められています。ご在席の多くの中国の省が周辺国の第三国市場と緊密なつながりがありますが、我々としては日本側とともにそれぞれの優位性を生かして第三国市場を開拓してまいりたいと思います。特にそのプロセスにおいて、ハイエンドの製造業においても協力をしたい。それによって双方の強みが相互補完的に、より十分的にあらわされると思います。

第3は金融協力です。我々は既に合意をしました。そして正式にも発表しておりますが、中日の間は通貨スワップ協定の協議を進めていきます。それは中国の人民元と国際の主要準備通貨である日本円の間で通貨スワップすることが、交換することができるようになります。それは中日双方の投資にもつながり人的往来にも寄与して、また金融リスクへともに対応することにも寄与できると思います。さらに、日本側に対してRQFII（人民元適格域外機関投資家）の2,000億人民元の投資枠を付与します。すなわち、日本の投資が中国に来るときによりよく、より便利になり、より多くの日本企業の対中投資を引き寄せることができま。ぜひその道具を日本側が十分に生かしていただき、また中国の地方もより多く日本の資産が進出することを引き寄せることを期待しております。RQFIIは道具にすぎませんが、その関連の措置も必要とされています。ぜひ我々がよりよいビジネス環境を築いてまいり、日本企業の中国進出を歓迎もしたいと思います。

本日は、これから安倍総理とともに日本の北海道にあるトヨタの生産拠点にも視察をしますが、そこにはハイエンドな製造業が行われています。既にトヨタからは明確に表明されていますが、中国で大規模な研究開発センターを立ち上げることを表明しました。中国に対してハイエンドな自動車生産、そして新エネ車などにおいて全面的な協力をすると表明しました。トヨタは、失われた時間を取り戻そうとしています。

本日ご出席いただいている幾つかの中国の省にも自動車産業がありますが、ぜひ日本側とそれをつなぎ合わせて中国と日本の企業が協力して、またそれは日本の企業にとっては中国は大きな市場があって、中国の企業にとっても中国企業の水準の向上にもつながるいいことだというふうに思います。それによって、我々も品質の高い発展に邁進することができると思います。

いずれにしましても、両国の政府が達成した協定がそれを実際地方にも、民間あるいは企業間の協力のためにも条件やスペースを提供しております。互恵的な

ものであります。中国にとっても利益で、日本にとっても利益であるというふうに互惠、ウィン・ウィンなものであるというふうに確信しております。

中国はまだまだ途上国ということで、日本との協力には相互補完的な関係が強く、我々の協力は北東アジアあるいは世界経済が回復している中においても2つの主要経済大国の協力の相互補完制によってきっと新たな、あるいはより力強い成長のエンジンが製作されると思います。

長く地方で勤務した経験がありますが、私が昔熟知しておりました高橋知事、そして北京でお会いしたことのあります石井知事、そしてご列席の知事ともゆうべお会いしました。高橋知事は、2006年に遼寧で私に対し、ぜひ北海道に来てほしいという招請をいただいたことを今でも覚えております。とても真摯な招請でありましたから、私も承諾をしました。そしてゆうべ申し上げましたように今回この約束を果たしました。

なぜ北海道に興味があるのかと記者に聞かれたことがあります。それは一方は約束を果たすためであり、他方、北海道も日本の近代化農業の重要な拠点であり、そのほか先端技術の産業も備えています。ぜひ北海道と先端技術の協力も行いたいですし、近代化農業の協力も行いたいと思います。

ゆうべも申し上げておりますが、日本産農産品の対中輸出拡大をする用意があり、もちろんそれが中国の市場によって求められ、高品質で安全で安心なものになればなりません。すると、紹介によりますと北海道にはまさにその強みがあるそうです。北海道の農産品が、日本市場においても非常に競争力のあるものというふうに伺っております。

私がこう言うのは、札幌に行って北海道のためにPRをするためではありません。ぜひ皆さんもこれからの議論ではそれぞれの省や県の強みについて語っていただきたいと思います。中国の省も日本の県にもそれぞれの強みがあって、この強みを全部紹介してそれをつなぎ合わせる事が大事です。

本年は中国改革開放40周年で、我々はひるまずに改革開放の路線を進めますが、先般ボアオ・アジアフォーラムで習近平国家主席が表明しましたように、我々の開放の扉はますます開かれます。中国の40年間の改革開放が大きな成果を上げられた大きな原因は開放によるものです。開放によって改革が導かれました。我々の開放には大きな特色もあります。すなわち地方が開放、特に経済協力の開放に自主権を大きく持っていることです。そして私としてもここで我々の地方、我々の省に権限を与えます。ぜひ日本の県とつなぎ合わせをしてください。特に先端技術、ハイエンドな製造業、近代化の農業においてはぜひ日本側の皆さんにもぜひ中国のそういったミドルレンジからハイエンドへの邁進をご参加いただきまして、そして日本側の皆さんにも大きな市場がもたらされると確信しており、中日双方もウィン・ウィンできるというふうに思います。ありがとうございました。（拍手）

## ○司会

ありがとうございました。安倍総理、李克強総理にご挨拶を頂戴いたしましたし

た。

お二方には地方自治体の友好交流活動にご理解を賜り、日中の友好交流がさらに拡大、発展するようより一層のご尽力をいただきたくお願い申し上げます。

それでは、ここでお二方がご退席なさいます。皆様、ご起立の上、安倍総理、李克強総理を盛大な拍手でお送りくださいませ。（拍手）

それでは、皆様一旦ご着席いただけますでしょうか。いましばらくそのままお待ちいただきますようお願いをいたします。

それでは、ここで一旦10分間の休憩をとりたいと存じます。この後、ご来賓の方がホテルを出発されるまで、保安上の都合によりエスカレーターを停止いたします。恐れ入りますが、5分程度3階から降りることができませんのでご了承ください。

会場の準備がございますので、一旦皆様にはロビーでお待ちくださいますようお願いをいたします。

〔休 憩〕

## ○司会

それではお時間でございますので、フォーラムを再開いたします。

ここからの進行は、両国の会長に共同で進めていただきます。

では上田全国知事会会長、進行をお願いいたします。

## ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

先ほどはお疲れさまでございました。

ここからは私、上田と李小林会長と2人で議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

まず、進行に当たりまして一言申し上げます。

先ほど両国の総理にご出席をいただき、日中両国の地方都市の交流や協力について大変有意義なお話をいただきました。特に李克強首相におかれましては力が入ったスピーチをなさり、大変感銘を受けたところでございます。

これからの時間はプレゼンテーションや意見交換ということでございます。この意見交換を通じながら、日中両国の地方交流のまさに実を結ぶことができるような形になればと思っております。ただ、時間の制約がありますので、プレゼンテーションやご意見に関してはコンパクトに取りまとめをお願いしたいと思います。

それでは、李会長からも一言ご挨拶をお願いいたします。

## ○李小林中国人民对外友好協会会長

このように上田会長・知事とともに議長を務めることができ大変うれしく思います。

中国側の省長さんたち、あるいは日本側の知事さんたち、いずれも発言が用意

されておりますので、いろいろな方がご発言されておりますので繰り返しいたしません。

また、中国側の省長さんは限られた時間ですけれども省の特徴を述べていただき、また知事さんたちにもそれぞれの特徴を述べていただければ幸いです。そして皆様のご出席に感謝を申し上げます。

時間がありませんので、早速実際の議事に入りたいと思います。

### ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

ありがとうございます。

それでは、まず日本側からお話をさせていただきます。

初めに、川勝静岡県知事に発言をお願いいたします。

### ○川勝平太静岡県知事

ダージャーハオ。尊敬する李小林中国人民对外友好協会会長先生、そしてまた省長、副省長の皆様、中国の友人の皆様、そしてご列席の皆様方、静岡県知事の川勝平太でございます。

静岡県には富士山がございます。この静岡県と友好協定を持っておりますのは浙江省であります。浙江省の省長並びに書記をお務めになられたご経歴の持ち主が、現在の習近平国家主席であるというのはご承知のとおりでございます。

2010年、北京の人民大会堂におきまして当時国家副主席でいらっしゃいました習近平先生と久しくお目にかかりました折、日本には最も美しい富士山がある。そして中国には浙江省杭州に最も美しい湖がある。私は「知者は水を楽しみ仁者は山を楽しむ」と中国の古典に言われているとおり山水一体でありますと申し上げたところ、文字どおりこれはロミオとジュリエットのようないわば恋人関係であるというふうに当時、習近平国家副主席が言われたのを懐かしく思い出しております。

この富士山の高さは3,776メートルございまして、2010年、国家副主席としての習近平先生にお目にかかりました折、それは上海万博の年でございます。静岡県としては上海万博の成功のために3776友好訪中団を送るというふうにお約束をいたしました。日本には「一騎当千」という言葉がございまして、1人で1,000人分の仕事をするということでございしますが、当時静岡県の人口は377万6,000人、まさに静岡県民を挙げて中国の万博を支援しようということでございましたが、実際上は上海万博並びに浙江省にそれを倍する人々を送り込むことができました。その結果、対中国友好都市交流提携賞というすばらしい賞をいただいた懐かしい記憶がございます。

さて、浙江省と静岡県との交流でございますが、次のページをお願いいたします。1982年の4月に友好提携をして以来、ありとあらゆる分野での交流が進んでおります。

次のページをお願いいたします。これは2017年、35周年の記念式典の様でございます。左側が日本において、静岡県において、右側が中国の杭州に

おける記念式典の様でございますが、静岡におけるその記念式典には程永華大使閣下並びにご夫人にご出席を賜りました。特段私どもは尖閣諸島問題で日中間がぎくしゃくしておりますときにも、浙江省の友人と静岡との友好は決して揺るがないということでお互いの訪問を果たしまして、それは大変すばらしかったというお褒めの言葉をいただいたのを懐かしく思い出しております。

また、杭州におきましては、省長閣下並びに書記閣下にご出席を賜ったのも懐かしい思い出でございます。

さて、静岡県と浙江省との防災交流でございますけれども、次の4ページをお願い申し上げます。浙江省、静岡県はさまざまな交流の中で特段に2008年、今日こちらにいらっしゃいます四川省、その四川省で大地震が発生いたしました。その際、本県は浙江省を通じまして被災地への救援物資を届けるなど積極的な支援活動を行いました。これを契機にいたしまして、浙江省と静岡県は防災に関する相互応援協定を締結いたしました。以後、浙江省からの研修生の受け入れや防災関連施設の視察などの相互交流を続けておりまして、いざというとき、困ったときにはお互いに助け合う関係がしっかりと構築されております。まさにこれが本当の交流であろう、友好であろうと確信しているところであります。

次のページをお願いいたします。この静岡県における防災の取り組みでありますけれども、2011年、東日本で大震災が発生をいたしました。これを契機にいたしまして、静岡県では地震対策に加え津波対策にも力を入れております。この津波対策の特徴は、沿岸、これは全部で505キロございますけれども、この沿岸に面している地域の人々と県とがそれぞれの地域の文化や歴史、自然環境等を踏まえ、十分に議論を重ねて合意の上で進めていくやり方で、静岡方式といいまして内外から高い評価を受けているところでございます。特に静岡県は日本の中央にございまして、東京と京都、西と東を結ぶ新しい高速道路、新東名高速道路というのが2012年に県内区間が完成をいたしました。その周辺、内陸地域を“ふじのくに”のフロンティアと位置づけて、物流並びに生産拠点の形成を進めております。この内陸地域は、津波に襲われる心配はありません。こうした地域を含めて県が75の推進区域を指定いたしまして企業立地の助成制度を充実させ、企業が立地すれば住民が増える。“ふじのくに”のフロンティアを拓く取り組みは防災・減災と地域成長とを両立させる画期的なものであるということで、今日ご臨席いただきました首相の内閣府から2度も最高の評価を受けております。

また、沿岸部では食の拠点に津波避難タワーを併設するなど内陸と沿岸都市部を結ぶ連携軸をつくり、県土の均衡ある発展を図っております。

この防災の取り組みは内外に聞こえておりまして、次のページをお願いいたします。次のページに映っておりますのは、スペインの国王・王妃夫妻でございます。2017年の4月、昨年のごことでございますけれども、天皇陛下、皇后陛下とスペイン国王ご夫妻が静岡県の防災政策を見学に来られました。右側の写真は地震防災センターでございます。ここで津波実験や地震の揺れが体験できる装置などを視察されまして、そのときの模様でございます。日本における最も防

災における取り組みが進んでいる静岡県のこの事情は天皇陛下並びにスペインのほうにも伝わっているという一つの事例でございます。

ちなみに、このときスペイン国王・王妃夫妻は静岡県に8年前に開港いたしました静岡空港から帰国の途につかれました。

最後のページでございます。これは富士山静岡空港から見える景色の一端でございますが、この富士山静岡空港が2009年6月に開港いたしましたとき、習近平先生は東方航空をもって日本と中国を結ぶというふうにお決めいただきました。6月の初便で、習近平先生が来られる予定でございましたけれども、残念ながら、しかしながら習近平先生にとっては重要なことでございますけれども北京政府に入られまして、そのためにまだ習近平国家主席は念願の富士山静岡空港への着陸を果たされておりません。いずれ日本にお越しになるときは世界文化遺産の富士山、世界農業遺産の茶草場農法、世界ジオパークの伊豆半島、世界で最も美しい湾・駿河湾、ユネスコエコパークの南アルプス、こうしたものに囲まれたその富士山静岡空港に降りたっていただきまして、中国の皆様にもぜひそれを機会に静岡県のご訪問を増やしていただきまして、富士山の四季折々の美しい風景を眺め、またおいしい海の幸、山の幸、日本で一番食材の多いのが静岡県、439でございます。食材の王国でございます。食の都でございます。それを味わっていただきたいと存じます。

最後になりますけれども、日中の末永い友好と皆々様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げまして発表を終わります。シェイシェイ。（拍手）

#### ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

ありがとうございました、川勝知事。

それでは、李小林会長お願いいたします。

#### ○李小林中国人民对外友好協会会長

では、中国側の省長の発言の番です。

まずは、中国の四川省の尹力省長です。

防災や持続可能な発展というテーマで発表されます。あすは四川地震が発生してから10年になるので、その記念行事に出席するため、尹力省長は今日の午後に四川にお帰りになります。

では、お願いします。

#### ○尹力四川省省長

この美しい北海道に参りまして、第3回中日省長知事フォーラムに参加することができまして大変うれしく思います。

そして日本の全国知事会に感謝し、また中国人民对外友好協会、中日友好協会に対しましても感謝申し上げます。このプラットフォームをつくってくださいます。ありがとうございます。

私がこれから四川省について紹介いたします。

西のほうに位置しております、人口が9, 100万、面積が48万6, 000平方キロあります。パンダのふるさとで、そしてまた九寨溝や黄龍、青城山それから都江堰、峨眉山それから樂山大仏など世界の自然文化遺産があります。また、三星堆を代表とする古蜀の文明、それから武侯祠を代表とする三国の文化、それからチベット、イ族、チャン族を代表とする少数民族の文化などがあります。非常に素晴らしいものがあります。日本の友人の皆様から非常に好評を受けております。

成都というのは、南のシルクロードの古代の起点であります。貿易が盛んで、紀元1023年、北宋の時期ですが、ここで世界で初めての紙幣、交子といいますが、紙幣が生まれました。改革開放40年来、四川の経済は非常に大きな成果を上げております。

2017年、この地域のGDPは3兆7, 000万元に達しております、中国で第6位を占めております。今日の四川は、中国の重要な装備産業、航空機それからパワー設備の生産基地であります。自動車それから新しい世代のIT技術、新しいエネルギー、新素材などの産業も非常に早く発展しております。今日の四川は、西の開放地域のフロンティアになっております。

また、200余りの国と経済・貿易関係を結んでおりまして、世界トップ500の中の331の会社が四川に入っております、17の国がここに領事館を設置しております。

ヨーロッパへの旅ですが、去年1012便列車が走っております、また成都の双流国際空港というのがあります、国際路線それから地方路線106線を開通しております、2017年の旅客数が延べ5, 000万人に達しております。中国の第4の空港になっております。今日の四川は、中国第19回大会で示した青写真に基づきましてもっと開放し、そしてもっと実務的な事業を推進していき、そして高品質な発展を遂げていきたいと考えております。

1984年は、四川は日本の各地と友好関係11組を結びました。トヨタ、伊藤忠商事、丸紅など日本の40社企業、これは世界トップ500社の中に入っておりますが四川に入ってきておりまして、また日中経済協会、ジェットロなど経済団体が四川省に事務所を開いております。

また、成都から東京、大阪までの直行便が開通しております、毎年30万人が四川省と日本各地の間を往復しております。

そして文化、観光、教育、科学技術、医療、衛生、経済貿易などの面での協力も進んでおりまして、今年は中日平和友好条約締結40周年であります。未来に向かって、私どもは日本各地と一緒に手を携えて中日関係を前に進めていきたいと考えております。

一つは、さらに地方関係を強化していきたいと考えております。四川省と広島県、山梨県との友好関係を進化していきたいと考えております。

2つ目は、産業分野の協力を強化していきたいと考えております。日本の優位性のある産業、それから大型企業が四川に投資することを歓迎します。

3つ目は科学技術の協力であります。新エネルギー、新素材、環境保護の分野

におきまして共同研究を進め、そして技術者の交流などを進めていきたいと考えております。

4つ目は防災・減災の協力であります。そして、その科学技術の能力を高めていきたいと思っております。人々の幸せのためにしていきたいと考えております。

あしたは、2008年5月12日、四川汶川大地震10周年に当たります。ここで私は四川省の被災地の人々を代表しまして、日本政府と日本の国民に対しまして非常に大きな支援をしてくださったことに対しまして感謝申し上げます。

中国のことわざですが「百聞は一見にしかず」という言葉があります。この機会を利用して、ぜひ日本の各界の皆様が四川省にいらして訪問したり観光したり、そして投資したりすることを歓迎いたします。ありがとうございました。

(拍手)

#### ○李小林中国人民对外友好協会会長

尹省長のご発言ありがとうございました。

日本側、お願いします。

#### ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

それでは、日本側からは平井鳥取県知事をお願いいたします。

#### ○平井伸治鳥取県知事

尊敬する李会長、上田会長、そして各省庁の皆様こんにちは。私は、平井と申します。鳥取県の知事をしております。北海道の皆様にお会いできまして大変うれしく思います。

あしたは四川汶川大地震から10年目となります。私は、被災された方々に哀悼の意を表したいと思っております。

鳥取県には、一昨年、それから2000年に同じ大きな地震が発生いたしました。中国とそれから日本ですが、地震が多いということで、私はこの面におきましても協力する必要があると思っております。

鳥取県には2つの空港があります。コナン空港と、それから鬼太郎空港です。この2つの空港があります。コナン空港のコナンの作者、鬼太郎空港の鬼太郎の作者は鳥取県出身の方です。鳥取県はまんが王国です。

それから、鳥取県は美食の都です。鳥取県には梨とかカニ、それからスイカなどが豊富にあります。それは非常に魅力あふれた自然や、山や日本海、それから砂丘もあります。鳥取県は日本のリゾートです。それから、古井先生という昔の方なんです、古井喜實先生がいらっしゃいました。古井喜實先生は日本と中国の国交を樹立した功労者であります。先ほど上田会長がおっしゃいましたように、何人かこうした井戸を掘った方々がいらっしゃいますが、そのうちのお一人が古井先生でございました。そのふるさとが鳥取県でございます。

また遠山正瑛先生、鳥取大学の先生ですが、中国で砂漠化を防止するための緑化に邁進をされました。鳥取県民もたくさん中国に渡りまして、今朝も許勤省長



とお話をしておりましたが、今、河北省におきまして、張家口において植林活動を行っております。その功勞をもちまして、中国政府から友誼賞をいただいております。

中国との国交につきまして、私どもは当初から地域間の交流をしなければならぬと考えてまいりました。32年間河北省とは交流を続けております。

また、中国の吉林省ともこのたび姉妹提携をさせていただきました。ぜひ李小林先生のご指導もいただきながら、ぜひともこうした交流を拡大していきたいと思っております。

一昨年の鳥取県中部地震、関東から九州に至るまで幅広い範囲で揺れを感じる大きな地震でございました。こういうときに地方政府が住民の皆様と協力をし、中央政府の援助も得ながら迅速に我々は行動しなければなりません。

これが鳥取県中部地震での被害の様子であります。観光地である倉吉という街、被災をしまして観光のモニュメントである白壁土蔵群という歴史的な建物が相次いで壊れました。また、梨の選果場でありますとかお寺の岩盤であるとか、いろんなところに被害がございました。梨もちょうど収穫シーズンだったもので落果をしてしまい、出荷ができなくなるという災難になりました。

私たちは、速やかに行動することが大切と考えました。2000年にも鳥取県で地震があり、一昨年の地震と比較してみますとこういうように進展しております。地震が10月21日にございまして、その日に医療チームを派遣をしたり、建物や土地の危険度を判定するそういう部隊を派遣しました。この建物の危険度判定は、2000年の地震では2週間後でありました。それを当日から私たちは取りかかりました。翌日にはボランティアの皆さんが全国から来ます。そのセンターを立ち上げました。そして、住宅復興の支援を受ける証明書となります罹災証明の事務を3日目からスタートしています。2000年の地震では11日目からでありました。学校も休日を挟んで月曜日から開けました。2000年の地震では、10日以上先でありました。また、被災地の住宅復興の支援制度も5日目から小さな規模の損壊も含めて対象にするようにいたしました。2000年の地震のときは1ヶ月後からでありました。インフラストラクチャーの復旧あるいは住宅の入居等、この10数年で私たちもいろんな訓練をしたりさまざまな対策をとり、早目に対応することができたと思っております。

やはり災害対策は、今日お集まりの皆様のようなリーダーのリーダーシップが大切であります。また、住民などの組織と一緒にする必要があります。これが地域の皆様の対策でございますが、地域の施設を開放したり、また住民の皆様がお年寄りを避難させたり、迅速に行いました。

復興を進めるに当たりまして、地域のボランティア組織などが動いております。また、海外からも防災の仕組みが機能しております。左側にあります河北省からは燕趙園と施設の復旧にご尽力をいただきました。また、右側は吉林省の皆様と一緒に防災について話し合ったところでございます。

鳥取県に皆さんにぜひ来ていただきたいと思っております。ありがとうございました。

## ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

ありがとうございました。

それでは、李会長お願いいたします。

## ○李小林中国人民对外友好協会会長

今日は河北省の許勤省長もご出席です。河北省の許省長からは、省エネ、環境保全、イノベーションといったことで河北がいかに日本の地方と着実な交流を行い、グリーンな発展をしているかということについてご発表いただきます。

## ○許勤河北省省長

尊敬する上田会長知事、そして李小林会長、知事の皆様、省長の皆様、こんにちは。

今日は美しい北海道に来ることができ、札幌に来ることができうれしく思います。第3回中日省長知事フォーラムにやってきました。心から上田会長、李小林会長、日本全国知事会、中国人民对外友好協会、中国日本友好協会のこうした行き届いたアレンジに感謝申し上げます。

今年は中日平和友好条約締結40周年を迎えております。先ほど李克強総理並びに安倍首相がこのフォーラムにご出席になり、それぞれご挨拶もいただきました。我々は、両国指導者の合意事項、そして示された方向に従い日本の知事の皆様とともにぜひ平和友好、これを活用し地方の交流、協力を深めたいと思います。

河北というのは地域的にとてもユニークです。首都をぐるりと囲んでいるんですね。面積は18.8万平方キロ、人口は7,500万人以上になります。これは中国でも唯一海があり平原があり、湖、丘陵、山岳地帯、高原といったことが全て備わっている省です。また、これは海のほうから頂上の出発点にもなっているところですよ。

今、河北には6つの空港があります。さらには、北戴河のようなリゾート地もあります。中国の工業の省、農業の省と言われています。

2017年、全省のGDPは5,700億ドル相当の金額に上っています。30年ほど余り前、習近平国家主席がかつて河北省の正定という県で仕事をしました。これは河北にとっては貴重な精神的、実践的な成果、宝物であります。

地方協力というのは日本との交流の重要な基礎だと思います。日本とのこの地方交流を河北は行っておりまして、すばらしい局面を迎えています。

1983年には長野県、86年には鳥取県とそれぞれ友好提携を行いました。今、河北の9つの市と日本の12の都市と友好関係を結んでいます。双方が経済・貿易、科学技術、教育、農業、医療衛生、スポーツ、文化などの分野で交流と協力を行っています。これによりまして、一連の成果をおさめています。

今、河北省の発展は重要なチャンスを迎えています。習近平主席がまさに決定を下した北京、天津、河北の調和のとれた発展という構想があり、雄安新区の計

画があります。北京とともに2022年には冬のオリンピックも開催します。このような幾つもの国家戦略が重なるようにして河北で行われています。双方の協力をする上では、これは大きな可能性をもたらしています。ぜひ日本の皆様と知事の皆様、友人の皆様とこうした発展の成果を共有してまいりたいと思いますし、チャンスを共有したい。そして協力、ウィン・ウィンを実現していきたいと考えております。

そのために、一つは雄安新区の計画、建設の中で協力をしたいと思います。雄安新区は、北京の首都の機能を移転するべく出された区域でもあります。こちらでは調和のとれたイノベーション、緑、開放といったことを行うモデル地区となり得るわけです。

去年、日本のGPM社、そして都市環境研究所といった設計機関がこの新区の計画のコンサルタントとしての役割を果たしてくださいました。そして、こちらでは多くの役に立つアイデアをいただきました。都市の計画やスマートシティーの構築、またスポンジシティー、グリーン低炭素、そして装備、建築といった面で今後も双方の協力の可能性を模索していき、日本の企業、関係機関など、ぜひこうした新区に進出をされ発展をされることを求めたいと思います。

2つ目に申し上げたいのは、冬季五輪そしてウィンタースポーツに関する協力のことです。2022年、北京の冬のオリンピックが行われますが、その多くの実は雪の競技というのは河北省の張家口で行われるのです。ここでは48の種目での金メダルが生まれることになっております。日本では、札幌、長野でそれぞれ成功裡に2回冬のオリンピックを開催しています。多くの知事さんたちと交流をしましたがけれども、我々きっと多くの県でウィンタースポーツでとてもユニークな県が多いと思うのです。ですので、ぜひとも双方の間で冬のオリンピックの会場の建設やメンテナンス、運営、そしてアイススポーツやスノースポーツ、さらには会場の運営サービスなど、またこのウィンタースポーツを利用した経済の発展などについて、幅の広い突っ込んだ交流ができればと思います。今後、この3億の人が中国ではウィンタースポーツを楽しもうというふうに考えているといえます。ですから大きな市場でもありますので、ぜひ協力をしてまいりましょう。

3番目に申し上げたいのは、科学技術のイノベーションと省エネ関係の協力です。河北は質というのを優先して追求していきます。イノベーションというのを第一の原動力とみなします。そして、産業構造もこうしたところから高めていきます。情報ネットワーク、バイオテクノロジー、そして人工知能、さらにはハイエンドな装備、新エネルギー、新素材、省エネ、環境保全といった新興産業について習近平主席の要請もありまして、生態を優先する、そしてグリーンの発展をするということがありますので、大気、水、土壌といった生態環境の対策をとっていきます。我々は、こうした分野でぜひともに技術、産業協力を深めていきたいと思っております。

それと同時に、人的な交流、観光、旅行また健康や介護など、さまざまな協力の余地があるというふうにも思っております。以上です。

最後に、ぜひ河北にお越しく下さいと申し上げ、7,500万の河北の人民を

代表し皆様お待ちしております。ぜひ皆様お越しください。また、ご健勝をお祈りいたします。ありがとうございました。

#### ○李小林中国人民对外友好協会会長

ありがとうございました。

それでは、日本側お願いいたします。

#### ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

ありがとうございました。

日本側からは、達増岩手県知事にご発言をお願いいたします。

#### ○達増拓也岩手県知事

岩手県知事の達増拓也です。

10年前の四川大地震の被害にお見舞いを申し上げます。また2011年、東日本大震災の際に中国の皆さんからいただいたご支援、改めて感謝を申し上げます。

それでは、岩手の観光プロモーションと経済振興についてご説明いたします。

岩手県は日本の北東部に位置し、東京からの所要時間は新幹線で約2時間、人口は約128万人、面積は日本国内では北海道に次いで2番目の大きさです。

「（歌）白樺 青空 南風 コブシ咲くあの丘 北国の ああ北国の春」、シェイシェイ、ダージャー。この「北国の春」は中国語にも翻訳され、カラオケでも不動の人気曲です。「北国の春」を歌っている歌手の千昌夫は岩手県出身で、自然と人情味豊かなふるさとの光景を思いたっぴりに歌い上げています。日本のふるさと、そして世界のふるさとでもある岩手県では、歌詞にある自然の木々や花々を至るところで見ることができます。

岩手県では、四季折々の観光を楽しむことができます。春は県内各地の満開の桜、夏は透き通った海で海水浴、秋は山々が赤や黄色に色づく見事な紅葉、冬は雪質がよく雄大なグレンデでスキーやスノーボードを満喫できます。中国からも多くの観光客にお越しいただいております、今後も多くの方々に岩手県を訪れてもらうことを期待いたします。

岩手のおいしい食材をご紹介します。

まず、岩手は日本を代表する米産地です。近年デビューした岩手県のオリジナルブランド米、金色の風、銀河のしずく、いずれも好評をいただいています。いわて牛は、コンテストで日本一を11回獲得しているトップブランドです。岩手のアワビ、中でも漢方吉品鮑は中国でも最高級品として取引されています。岩手のリンゴ、はるかは蜜がたっぷり入り、しっかりとした甘さが特徴で、最高級品質のリンゴ冬恋は1個2,000円以上の値をつけることもあり、贈答用に人気です。

岩手県には2つの世界遺産があります。一つは平泉の文化遺産、12世紀、戦乱の焦土から立ち上がり敵味方の区別なく人と人、人と自然との共生を願い、戦

争のない理想郷を築こうとした平泉の理念が評価されました。

2つ目は橋野鉄鉱山、1858年、橋野鉄炉が建設され、いわば日本の近代製鉄発祥の地であり、ここから日本の近代化が始まったと言っても過言ではありません。

岩手県には数多くの伝統工芸品があります。代表的なものが南部鉄器です。2010年の上海万博で、岩手県が普洱市及び上海大可堂と共同で出展したことを契機に、中国でも人気を集めています。

また、岩手県は日本一の漆の産地でもあります。品質が極めて高く、浄法寺塗などの漆工芸品が職人の手でつくり出されています。

このたび、岩手県釜石市はアジアで初めての開催となるラグビーワールドカップ2019日本大会の開催都市の一つに選ばれました。東日本大震災で中国を初め世界中からいただいた支援への感謝と復興の姿を伝える絶好の機会と捉えて、準備を進めています。大会開催の際にはぜひ岩手県にお越しただいて、ラグビーの試合とともに観光もお楽しみください。

次に、地方政府間交流の状況です。

岩手県は、2005年、大連市に岩手県大連経済事務所を開所し、大連市をゲートウエーとしたビジネス展開を初め2007年に地域間連携の推進に係る協定を締結し、幅広い連携に取り組んでいます。実施に当たっては、遼寧省、大連市、関係機関から多大なご支援をいただいております。改めて感謝申し上げます。

また、2013年に雲南省と友好交流協力協定を締結し、幅広い交流連携を進めています。青少年交流では両地域の文化の理解を深め、農業交流では環境保全型農業などにおいて農業技術者の相互交流を行っています。経済交流では、南アジア博覧会への出展や岩手フェア in 雲南を開催しています。この4月には雲南省昆明市に岩手県雲南事務所を開所しました。これまで培ってきた両地域の連携をより強固にしていきたいと考えています。

岩手県は、地方政府間交流を通じて中国との友好関係を築いてまいりました。このような取り組みが実を結んで、先月、中国人民対外友好協会を訪問する機会をいただき、本日お越しになっている李小林会長と会見させていただきました。会見の席上、日中の友好に岩手県も貢献していくことをお約束いたしました。

昨年、若者活躍支援の拠点として岩手若者カフェを開設した際、記念として私みずから岩手の若者の代表に中国式の作法でプーアル茶を振る舞いました。岩手の若者たちには、将来の日中友好の担い手となってほしいと考えています。

中国から多くの方々が日本のふるさと、そして世界のふるさと東北岩手を訪れていただいて、皆様のふるさとにもなることを願っています。私の説明を終わります。シェイシェイ、ダージャー。（拍手）

#### ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

達増知事、ありがとうございました。「北国の春」は、いずれ何かの機会のときにはゆっくりお聞かせをいただきたいと思います。

ここまで、10時40分までに終了というのが目安というのが括弧書きで出ております。よろしくご協力をお願いいたします。

李会長、お願いいたします。

### ○李小林中国人民对外友好協会会長

今回は、中国の遼寧省から参りました省長、唐一軍がいらっしゃいます。観光の振興についてお話をお願いします。

### ○唐一軍遼寧省省長

上田会長、李小林会長、そして知事の皆様、省長の皆様、ご来賓の皆様、ご列席の皆様、おはようございます。

5月の札幌、生き生きとし、また大変気候が気持ちよく風も気持ちよく感じます。このすばらしい季節に、私はこの第3回中日省長知事フォーラムに出席できて大変うれしく思います。こうして皆様とともに友好、協力について語り合い、そしてウイン・ウイン発展について語り合う。私、ここに遼寧省人民政府を代表し、このフォーラムの成功裡の開催に心からお祝いを申し上げたいと思いますし、またこの主催者にも心から感謝を申し上げる次第です。

遼寧省は、中国の東北の南部にあります。紅海、渤海に面しており、日本とはまさに一衣帯水、海を隔てた関係です。面積は14.8万平方キロ、人口は4,300万余りであります。

遼寧は北方の重要な開放の門戸、玄関ということがあります。遼寧は中国の東北でもまさに海や川に沿ったところにあります。大東北が背後にあり、そして環渤海、そして東北とアジアに通じるところであり、一帯一路建設の中でも重要な省になります。我々は開放とウイン・ウインを堅持し、海の潜在力を使い川の活力を生かしながら十分なことをやっていきたいと思っております。高いレベルの開放で高い質の発展をし、中国が東北アジアに向けた全面的な開放をする重要な橋頭堡としての役割を果たしたいと思っております。

また、遼寧は重要な工業の基地でもあります。遼寧省は、中国の近代工業の揺籃、要するに発祥地でありまして、いろいろな工業基盤があります。また、ジャンルもそろっています。航空、宇宙、自動車、造船、新医薬、NC機械やロボットそして石油化学、鉄鋼など中国でも大変重要な産業が集積しています。我々は製造の強い省でありまして、変革とイノベーションで新たな原動力を発展させ、実体経済を振興し、古き工業基地を全面的に振興させようとしています。

もう一つは、我々文明の省でもあります。遼寧省は、中華文明の歴史の中でも大変重要な位置づけをされております。多くの文明の発祥の地でもあります。また、悠久の歴史があり、繁栄した文化というのは大変有名で、人を引きつけるところがあります。また多くの遼寧の人たちが大変開かれた心持ち、品格を持ち、この地で中華文明の輝かしい歴史というのを書き記してまいりました。また、遼寧省というのは美しきところでもあります。今の遼寧省は、政治、人が調和をとれ、社会も調和がとれ、環境は美しく、また風光明媚であります。人々も安心し

て仕事にいそしみ、楽しく暮らしています。瀋陽、大連、鞍山、盤錦というのは全国の文明都市と言われています。改革、開放が行われて40年、遼寧は門戸を開いて多く建設をし、そして発展し変化を遂げ、中国の改革、開放の偉大なプロセスを進んでまいりました。

今、遼寧は全面的に発展、振興という鍵となる時期を迎えています。習近平氏の新時代の中国の特色のある社会主義の新思想というのを指導とし、イノベーション、調和、グリーン、開放、共有という発展の理念をもとに遼寧省の全面的な振興という目標のために邁進し、努力しています。

今年は中日平和友好条約締結40周年に当たります。1978年以降、遼寧省は日本と友好都市19組を築きました。神奈川県、富山県とは省、県レベルの友好都市となっています。また、各分野での協力、交流も大変多くの成果を上げております。遼寧は、対日友好協力交流の中で大変重要な役割を果たしていると自負しております。

今回、中国の李克強総理が日本を訪問し、そして新たなる両国関係を切り開きました。これは中日の地方協力をする上でも大きなチャンスだと思いますし、多くの潜在力、余地がもたらされたと思います。このフォーラムを契機として、努力して中日の省と県の交流の新たな歴史を切り開いていきたいと思っております。

まず、第1にさらに交流、協力を行うこと。我々ぜひ日本の地方政府の皆様とともに各面での人的な往来と交流を行い、密な頻度の高い連携をとり、より緊密な連携をし、もっと親しくなっていきたいと思っております。

2つ目は、さらに経済・貿易の協力を行いたいと思っております。遼寧と日本は、経済・貿易の交流の面ではいい基盤があります。相互補完性も強く、我々ぜひともさらに双方の科学技術、イノベーション、ハイエンドな製造、情報産業、グリーン産業、近代的な農業といったさまざまな面で協力をしたいと思っております。ぜひ日本の企業、関係機関の方、遼寧にお越しいただき、投資、進出をしていただきたくお願いをします。よりよいサービスで最良のサービスと政策をもって、よき環境をもってこの遼寧への進出をお待ちしております。最良のサービスを提供したいと思っております。

3番目に、協力の分野を広げていきたいと思っております。我々としましては、経済・貿易の協力を軸としまして友好都市、文化、科学技術、教育、観光といったさまざまな分野の協力というのをもとにしながら、特に提案として双方の青少年交流に力を入れていきたいというふうに提案をしたいと思っております。我々双方の交流、協力のため、また中日友好の発展のためにかたい社会的な基盤を固めていきたいと思っております。

以上、日本の皆様とお互いに向き合いながらともに努力をし、省、県の協力の新しい成果を中日両国の平和友好の新しい発展につなげていきたいと思っております。

最後になりますが、心から知事の皆様、省長の皆様、そしてご列席の皆様、一度遼寧省にお越しいただきたいと思っております。皆様のご健勝をお祈りし、発言とさせていただきます。（拍手）

○李小林中国人民对外友好協会会長

ありがとうございました、唐先生。

それでは、日本側お願いします。

○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

ありがとうございます。

日本側からは、吉村山形県知事をお願いいたします。

○吉村美栄子山形県知事

ダージャーハオ。私は、山形県の知事、吉村でございます。

このたび第3回日中知事省長フォーラムが開催されましたこと、本当に喜ばしく思っておりますとともに、本日このような貴重な機会をいただきまして感謝申し上げます。

山形県は、黒竜江省と1993年に友好県省の盟約を締結しております。また、2011年にはハルビンに事務所を設置いたしました。ここを拠点に交流を継続してきております。

しかしながら、経済・観光交流につきましてはなかなか広がってきていないというのが現状でございます。今年は友好県省25周年に当たります。この間、国と国との関係が難しい局面になりましたが、地方と地方の交流は途切れることなく実施されてまいりました。大変重要だと思っております。今回のフォーラム参加と25周年を契機に、より一層の交流拡大に努めてまいりたいと考えております。お互いの観光、経済、文化、そういった交流を発展させ深めていくことがお互いにウィン・ウインの関係になっていくことで、両国間の平和にもつながるものと確信をしているところでございます。

山形県は「おしん」のふるさとでございます。「おしん」のように力強く一生懸命働きまして、今では工業、農業も大変盛んな地域となりました。日本の東北地方に位置しておりまして、東京からは飛行機で約1時間のところですが、県内には2つの空港がありまして、山形空港へは1日2便、庄内空港へは1日4便の合計6便が羽田空港から就航しております。また、大阪、名古屋、北海道とも飛行機で結ばれております。

左下の写真ですけれども、日本政府国際広報誌「We Are Tomodachi」に掲載された山形市霞城公園の桜です。4月には大勢の観光客でにぎわいます。

山形県には35市町村ありまして、その全てに温泉が湧いている温泉王国でございます。山や溪谷に囲まれた温泉、大型旅館が建ち並ぶ温泉街、また湯治の湯、海沿いの温泉などさまざまな温泉が楽しめます。左上の写真は銀山温泉です。右上は蔵王温泉の大露天風呂、川が全部温泉になっています。左下が湯野浜温泉、右下は肘折温泉でございます。

豊かな自然と生産者のたゆまぬ努力でつくられたおいしい食べ物が山形県の誇



りです。日本一的美食、美酒県と自負をしております。山形県は日本一の生産量を誇るサクランボやメロン、スイカ、桃、シャインマスカット、ラ・フランス、柿、リンゴなどたくさんのフルーツが楽しめる果樹王国でございます。また、山形県が10年かけて開発した日本一おいしいと評判のお米、つや姫や米沢牛、尾花沢牛をはじめとする牛肉、豚肉など大変おいしい農産物にあふれております。

さらには、山形には53の酒蔵と14のワイナリーがあります。特に、日本酒は全国でトップとの評価を受けております。特に都道府県で初めてGI、地理的表示の指定を受けております。独占的に地域ブランドとして「山形」を名乗ることが認められております。

また、明日5月12日から東北地域では初めてインターナショナルワインチャレンジ（IWC）の日本酒部門審査会を山形県で開催いたします。14カ国から60人の審査員が来県して審査を行うものでございます。

山形のものづくりについても少しご紹介します。

約900年前に始まった山形鋳物に端を発して、打ち刃物や絹織物、じゅうたんなどの技術が地域で育まれてきました。現在ではさらに発展して機械産業や半導体産業、自動車、航空機産業を支える地域となっております。

左上の写真が山形鋳物の鉄瓶でございます。その右がじゅうたんですけれども、特に右のじゅうたんは職人が丁寧に手織りをした、そして歌舞伎座に納入されたじゅうたんでございます。左下の写真ですけれども、世界で一番軽いノートパソコンです。米沢でつくられております。そしてその右側が中国の皆様にも人気が高いG-SHOCKです。時計ですね。それから本間ゴルフのドライバーでございます。いずれの製品も山形県内で製造されております。右下の写真ですが、2020年春に供用予定の山形大学医学部附属病院の重粒子線がん治療室のイメージです。痛みも伴わず、傷跡も残りません。体に優しい最新の治療です。通院による治療が可能ですから、温泉、ホテルなどに滞在して地域の観光を楽しみながら治療できます。

観光にビジネスに、ぜひ皆様山形県においでください。県民挙げて歓迎いたします。本日は本当にありがとうございました。シェイシェイ、ダージャー。（拍手）

#### ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

吉村知事、ありがとうございました。

では、李会長お願いいたします。

#### ○李小林中国人民对外友好協会会長

それでは、黒竜江省の王代理省長に来ていただきました。観光をもって地方経済を促進しようということです。

#### ○王文涛黒竜江省代理省長

上田会長、李会長、そして各省庁の皆様、知事の皆様、5月の札幌というのは

桜の花見の非常によい季節で、ハルビンも人を魅了するライラックの花を迎える季節であります。このような季節に皆様と一堂に会しこのフォーラムを開催し、そして新しいページを開くことができまして大変うれしく思っております。

黒竜江省は今は田植えの時期であります。この時期になりますと、2人の日本人の方を思い出します。彼らは黒竜江省の荣誉市民であります。一人は北海道からいらした水稻栽培専門家、原正市先生です。もう一人は、岩手県の藤原長作先生です。1979年、原先生は中国の農業協会の招待で初めて東北の地を踏みました。来たときはちょうど早春の時期で、田んぼにはまだ氷が残っておりました。彼はみずから土壤の温度を調べようと、靴を脱いで冷たい水の中に入りました。皆様は彼の精神に心が打たれまして、一人の農家の方が洗面器に温かいお湯を持ってきて足を洗ってあげようと思いました。しかし、原先生はこの農民の純朴さと優しい心に感動しましてこういうことを言いました。「このように外国人に親切にするということは不思議に思いました。私は、必ず水稻の栽培技術を中国の農民に教えます。」と言いました。それから1982年から8年の間に15回ぐらい黒竜江省に来ました。800日間ぐらい滞在しまして、28の市、県の農地を回りました。

また、もう一人の藤原先生は76歳でしたが、そのときは1980年でした。日本人墓地の墓参りに参りましたが、しかし彼は非常に感動されまして、自分の水稻技術を方正県の人に教えようと思いました。藤原先生のこの栽培法というのは、中国の北の方の13の省、市で展開されました。1989年、中国の外国専門家局から特別荣誉表彰を授与しまして、また李鵬総理も接見しました。98年、87歳の藤原先生が亡くなる前の遺言ですが、お骨を半分方正県にまいてほしいとのことでした。

この二方はもう10年以上我々から離れましたが、しかし彼らがこのようなことを言ったことをいまだに思い出します。友好の基礎は民間にありますということです。これは我々の交流の一つの縮図でもあります。

今年はちょうど平和友好条約40周年ということですので、黒竜江省は日本とずっとよい関係を結んできておりまして、新潟県や北海道などと非常によい関係を結んでおります。また、観光、文化、スポーツ、メディアの交流なども行っておりまして、また洪水、地震、災害の面でも新しい協力を進めております。

皆様、今回のフォーラムは地方協力を進化し日中友好を推し進めていくというテーマですが、現在この方向性というのが我々の方向性と合致しておりまして、平和、発展のために協力していきたいと考えております。

黒竜江省にはすばらしい自然を有しておりまして、夏は涼しい天然の酸素のバーでもあります。冬は銀の装いで非常に美しいということです。雪の天国でもあります。習近平さんがおっしゃった冰山も金山、銀山であるということです。冬、冬の産業を発展させようということです。そしてヤブリスキー場というのもありまして、またスケートやスノーボードのワールドカップなどもここで開かれております。また氷祭りなどもありまして、黒竜江省の有名度も非常に上がってきております。それから太陽島という観光地もありまして、多くの観光客がここ

を選んで来ております。非常に美しいところがたくさんありまして、何度も来たいという気持ちになります。

それから洪水防止記念塔など、それからソフィア教会、それから大橋などもありまして、またハルビンのマラソン、それからF1の競技などもここで行われておりまして、非常に活力のある都市でもあります。それから、夏の音楽会などもあります。それから、ハルビンオペラハウスもあります。ユネスコはハルビンに音楽の都という称号を与えてくれました。毎年の観光客は1億4,000万人に達しております。また、黒竜江省は大きな森林もあります。それから湿地もあります。農地もあります。それから湖、それから冰山、それから川もあります。22万平方キロある森林ですが、そのカバー率も非常に高いということで非常に大きな林業を発展させる余地があります。また、湿地も非常に多くありまして、その中の8つが有名であります。また、黒い土地もあります。黒い土地というのは世界でも有名であります。それから食糧生産というのも非常に進んでおりまして、グリーン食品、有機食品も有名でありまして、中国で初めて遺伝子組み換えを禁止する法律が通過した都市であります。また畜産業も非常に発達しておりまして、トウモロコシや乳牛の産地でもあります。

また、科学技術の能力も非常に高いということです。また、非常に古い産業基地でもあります。石油化学、装備産業、エネルギー産業などが発展しております。また有人飛行船、ロボット、新素材などの産業も発展しております。また、日本の地方政府とも協力して交流を進めております。このような願望を双方持っております。

「徳は孤ならず必ず隣あり」という言葉がありますが、我々はともに北東アジアにあります。我々の協力の空間というのは非常に大きいということが言えます。

そして今、公正な法治環境、透明な政務環境、誠実、信頼性のある人文環境、それからグリーンな生態環境を建設しておりまして、よいビジネス環境をつくり上げようとしております。一衣帯水の国であります。そして2000年の歴史を持っております。それは得がたいものであります。

李克強総理が先ほどおっしゃったように、中日両国がイノベーションの面でも協力を進めていき、また第三国の市場を開拓していきたいと考えております。金融の面におきましても、協力していきたいと考えております。そして未来をつくっていきたいと考えております。以上です。（拍手）

## ○李小林中国人民对外友好協会会長

ありがとうございました、王省長。

大変申しわけないんですけども、2人の省長、遼寧の唐省長と四川の尹省長ですが、午後の飛行機に乗らなければいけない、帰国しなければなりません。特に尹省長はあす四川地震から10年の行事があります。飛行機に遅れるわけにはいかないものですから、すみません、最後までいられないことを申しわけなく思います。お許しいただきたいと思います。

また、今回は2人の省長お忙しい中、今回のフォーラムにご出席いただきましてありがとうございました。今こちらで退場されます。申しわけございません。お送りもしませんけれども。（拍手）

それでは、引き続き午前中の会議をお願いします。

そして、日本側をお願いします。

### ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

ありがとうございます。

それでは、日本側からでは最後になります。石井富山県知事に発言をお願いいたします。

### ○石井隆一富山県知事

ありがとうございます。皆さん、こんにちは。

李小林会長を初め中国の省長の皆さんと親しく懇談できる機会をいただき、大変ありがたいと思っております。時間も押しておりますので、なるべく手短にお話をしたいと思います。

まず、私どもの富山県は日本列島のちょうど日本海側のほぼ中央にございまして、地方の県としては製造業が非常に盛んな県でありまして、また農林水産業も盛ん。また、観光資源も大変多くございまして、最近では外国からの観光客が大変増えております。

このパワーポイントを見ていただきますと、富山空港は東京との関係では1日4便、札幌1便ということですが、国際路線としては大連それから上海、台北、それからソウルと地方空港としては4路線ございます。また、このほかに書いてありませんけれども3年前に北陸新幹線が開業いたしましたので、富山ー東京間は約2時間でつながっております。

なお、大連便は昨日も唐一軍省長とも話していたんですが、前は週3便、5便の時代もありましたがいろいろな事情で最近週2便になっておりますので、早目にこの増便をしていきたいなと、こういうふうに考えております

次に、遼寧省を初め中国との経済交流でございますけれども、富山県は日中国交回復に大変尽力された故松村謙三先生のふるさとでございます。まさに井戸を掘った方でありまして、そんなこともありまして、1984年に富山県と遼寧省が友好県省を締結したということでございまして、当時は今の李克強総理、遼寧省の書記をなさっていらっしゃいましたのでご懇談をさせていただいたといったこともございます。

また、大連に富山県事務所を2004年に設置いたしておりますので、ここで富山県企業の遼寧省を初め中国への進出等について後押しをするというふうにしております。例えば右下にありますけれども、YKKグループも進出しております。また、そのほか例えばコマツNTCとかいったものも遼寧省に進出しておりますし、またそのほかの省にも不二越とかタカギセイコーとか優良企業が進出しております。

なお、上海万博のときには富山県の日というのを設けまして、ご存じかどうか、世界的に有名な「ドラえもん」という漫画がありますが、あの作者は富山県の高岡市の出身でありまして、藤子不二雄さん。そうしたことで、このドラえもんに会いたいというので富山に観光に来る子供たち、親子もいらっしゃるわけでございます。

また、香港にも、食も大変豊富な富山県ですから毎年のように出展をいたしております。

こういうことの結果、この10数年で見ますと中国に進出しております富山県企業は2001年ごろは62の事業所でしたが最近では290事業所ということで、約4.7倍に増加いたしております。また、遼寧省を初め東北地方には37社、47事業所、主な企業としてはここに列記してあるとおりでYKKグループとかコマツNTC、三協立山、不二越、こんなような企業がございます。

富山県産の農林水産物の中国への輸出促進ということですがけれども、先ほど李克強総理も日本からの農産物の輸入について前向きのお考えを伺ったところでありましてけれども、中国への富山県産米の輸出についてはここに表示したとおり、例えば株式会社神明さんを通してコシヒカリ50トンだとか、味千ラーメンさんに富山県産米を使ってもらっているとかパックご飯の輸出とか、幅広く今近年増えております。これをさらに大幅に拡大していきたいと思っておりますけれども、そのためには中国の指定を受けられた指定精米工場、また登録薫蒸倉庫、こういったものが中国のご指定いただけるようにすることが必要でして、今その準備もいたしております。今後も進めていきたいと思っております。

それから、経済だけではなくて文化の交流も大切でございまして、左側にありますけれども、文化団体による富山県の芸術文化協会と遼寧省の文学芸術界連合会の連携ということでいろんな交流しておりますし、また最近では富山県の利賀に世界的な演出家の鈴木忠志氏の本拠がありまして、この鈴木先生の指導を受けたいということで上海とか北京の学生さんがしばしば来て、劇団もいらして、そこで作り上げた作品を例えば上海や北京で公開するといったこともやっております。また、昨年は北京の国家大劇院で鈴木先生が率いる劇団SCOTが日中国交正常化45周年記念ということで講演をさせていただきました。日本の劇団では初めてでございます。

また、4年前にシアター・オリムピックスというのを北京で開かれましたけれども、来年はこれを富山県の利賀で開催するということになっておりまして、ここに中国を初め約20カ国から約30の作品が寄せられて上演するといったことになっておりまして、現在その準備を進めているところでございます。

それから、その次は富山県と遼寧省との人的交流、経済文化交流ですがけれども、国際交流員の方とかあるいは海外技術研修員、県費留学生の皆さんなどそれぞれ多数富山県に来ていただいております。こうした国際交流員の方の中から、例えば3人ぐらい今遼寧省の外事弁公室で活躍されていますし、李克強さんと人民大会堂でお会いした際にはその通訳なども務めていただきました。

また、2年前に日中経済協力会議、これは東北の各県の皆さんとご一緒に富山

で開催したんですけれども、中国からも多数の方においでいただいております。また、昨年のもつくり総合見本市というのを富山で行いましたが、これにも中国から103の社・団体、またうち遼寧省からは67社・団体が参加をされております。

それから、観光について少し触れますと、私どもは立山黒部アルペンルートという世界的な観光地がございまして、大変多くの最近では外国人の観光客も増えております。また、黒部峡谷鉄道などもございます。それから四季折々でいいますと、例えば春は今申し上げた例えば黒部アルペンルートの雪の大谷、高さ20メートルに迫る雪の壁で大変迫力があるというので、世界的な観光地になっております。また砺波のチューリップ、それから夏になりますと世界規模の大規模な黒四ダム、あるいは最近では大変人気が出ております富岩運河環水講演や富山県美術館なども立地しております。また、秋になりますと立山黒部アルペンルートの秋の景観、世界遺産五箇山、あるいは雪化粧した庄川温泉郷、最近は大変これも外国の方々多数いらっしゃっております。また、宇奈月温泉などもございます。

それから、次見ていただきますと、海外からの誘客はこの14年ぐらいで外国人の方は11倍以上になっておりまして、特に台湾とか韓国、またタイとか香港、シンガポール、インドネシア、こういった方々で、また最近では中国からも大変多くの方に来ていただいておりますが、人口規模なんか考えると、中国からはもっともといずれたくさんの方に来ていただけるのかなと思っております。

ミシュラン・グリーンガイドに載せていただいている三つ星あるいは二つ星、一つ星の観光拠点も一つの県としては大変多くございます。

それから、次に富山湾も静岡の相模湾の話がさっきありましたが、4年前に世界で最も美しい湾クラブのメンバーになることを承認されまして、来年はおかげをもちましてその総会を富山県でやるということが今年のフランス総会で全会一致でご承認をいただきました。これをきっかけに富山湾岸のサイクリングというのをこの4年ほどやっていますし、また日本で一番大きなヨットレースのタモリカップも富山でやる。また、外航クルーズ船も随分増えてまいりました。

また、文化という意味では伝統工芸の魅力発信、また製作体験ということもアピールしておりまして、昨年は北陸3県と文化庁の共催で国際北陸工芸サミットというのを富山でやっていますけれども、世界の35カ国から出展があって作品が400以上集まったんですけれども、厳正な審査の結果、この川原さんという富山の方、これは和紙の職人さんですけれども最優秀、準優勝がイギリスの方ということになりました。伝統工芸品のいろんな体験ができて、欧米の方、最近では中国の方なども大変多く来ていただいております。

それから、富山県はもともとお魚が大変おいしい、富山湾は日本海にある魚800種類のうち500種類が富山湾に生息すると言われていまして、ホタルイカとかベニズワイガニ、シロエビ、ブリ、こういったものが大変おいしいところでありまして、この富山湾だけでとれたお魚だけで握ったのが富山湾鮨で大変人気がありまして、最近では新幹線に乗って東京などからも、あるいは外国の方でもこれを目当てにいらっしゃるという方も増えております。

最後になりますけれども、李克強総理には2009年に人民大会堂でもお目にかかりまして、遼寧省と富山県の交流は日中自治体交流の模範であるという高いご評価もいただきました。

また、歴代の書記、省長さん方との交流もやってきておりますし、また4年前に中国国際友好都市大会、これは中国人民对外友好協会の李小林会長さんにもお世話になりましたが、ここで富山県と遼寧省との関係、モデル友好都市だということで表彰もいただいております。この機会に改めてお礼を申し上げます。

また、今年8月には日中平和友好条約40周年ということで、改めて遼寧省に私が、代表、団長を務めて経済界、文化界等の、あるいは市町村長さんと一緒に訪問しようと思っております。

先ほど李克強総理のお話で、これからのやはり産業の方向として絶えざるイノベーションが大事だと。また、日中協力して第三国への市場を開拓する。こういったことが大事だというお話もありました。私どももかなりの企業が遼寧省などに進出させていただいておりますので、こうしたさらなるイノベーションを進める。そしてできるだけ付加価値の高い製品を中国の企業と連携して作り出して、それで第三国に市場を開拓する。こういったことも含めて、これからも中国との交流を一層進めてまいりたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。終わります。シェイシェイ、ダージャー。（拍手）

#### ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

石井富山県知事、ありがとうございました。

それでは、李会長お願いいたします。

#### ○李小林中国人民对外友好協会会長

中国の最後の発言者ですね、江西省の呉副省长です。そして江西省の紹介をしたいと思います。それから、日本との交流について。

#### ○呉忠琼江西省副省长

上田清司会長、そして李小林会長、知事の皆様、省長の皆様、ご臨席の皆様、こんにちは。

中日友好条約締結40周年に当たり、このように第3回中日省長知事フォーラムに出席し、美しき北海道に来ることができてうれしく思います。全国知事会、中国人民对外友好協会のこのアレンジに心から感謝し、このような場を与えていただき、さらに江西省について紹介する機会をいただきありがとうございます。

江西というのは中国の中部にある長江沿線にある、流域にある省でありまして、16.69万平方キロの面積、4.600万人の人口であります。美しき江西は中国での生態、グリーンの土地、人的文化そして開かれた土地であります。生態的にも美しいところであります。

地形的に江西省というのは、まさに中国という半島の中にエメラルドのように埋められたような特徴があります。森林の被覆率は63.1%で、最も緑な省で

す。鄱陽湖というのは中国最大の淡水湖でありまして、重要な世界の湿地でもあります。そして、半分のこの集中したその水の供給というのが行われています。そしてまた、こちらでは白い鶴の生息が世界の98%がここに生息しています。そしてまさに絵画のような風景が至るところにありますし、世界遺産が5カ所、世界の地質公園が4カ所、国家レベルのA級と言われる景勝地が10カ所あります。

習近平総書記が江西省を視察しまして、江西はすばらしいところだ、生態が美しい、そしてこのように観光地が多い、そして廬山、そして美しきすぐれた龍虎の天下の絶景があるというふうにおっしゃいました。また、その中でも婺源というところは最も立体的な山水画と言われて、美しい村の風景があります。また、我々江西のモデルだというふうに、我々をつくっていかねばいけないというふうに思っています。

江西というのは、人的な文化が大変進んでいます。物も、そして人材も大変すぐれています。特に唐、宋の8大家、歐陽脩や王安石などの3大家もいます。また陶淵明の詩、湯顯祖の戯曲、黄庭堅の書道、傅抱石の絵画など、これは中華文化の芸術の中の名品であります。

1, 000年にわたり伝わる景德鎮、これまで江西というのは余り対外開放が進んでいなかったのか、多くのこの知事の皆様、江西省に行ったことがない、でも景德鎮と言えはわかるというようなお話がありました。我々これはまさに景德鎮の里なのです。また滕王閣があったり、また白鹿洞があり、また東林寺などがあります。そして我々多くの仏教や禅宗が、五家七宗のうちの三家五宗がこちらに集中しています。ここ数年は多くの日本の方たちが江西省を訪れました。いろんなお寺、宝峰寺というのもあります。

また、我々この江西省というのは革命のその本拠地といえますか、発祥の地でもあります。また、労働者運動もありました。また、5, 000年の歴史のある中国の長い歴史の中で新しい精神をこちらには注ぎ込んでいるのであります。そして、こちらはこのようにさまざまな文化がぶつかり合い融合しています。

また、江西は開放した土地でもあります。鄭和の西洋の冒険というのがありました。かつて江西の南昌の地の人であった汪大淵が豪州に行ったりアフリカにも航海をしていきました。そして中国と世界の友好往来を促進し、東洋のマルコ・ポーロとも言われました。

また、今我々空路でもいろんなネットワークがあります。その高速道路は6, 000キロになります。また、各省といずれも高速道路があります。鉄道は4, 000キロにわたって敷設されておりまして、中国の最も発達した揚子江デルタ、珠江デルタ、そして福建の西部の開発区まで空の便では1時間、高速鉄道では3時間、高速道路を使えば6時間という経済圏ができています。そして江西省も一帯一路の建設圏に盛り込まれておりまして、これをシルクロードの道として構築しようとしています。

また、江西は日本とも大変密接な交流があります。1988年と92年、それぞれ岐阜と岡山と友好省県の関係を結びました。双方はそれぞれトップが相互訪



間し人的な交流をし、経済・貿易、文化、教育、林業、農業といった各分野で効果的な友好交流と協力を行いました。去年は江西と岡山の友好提携25周年で、それぞれ友好都市交流の成果に関するパネル展を行ったり、江西省のこの無形文化の遺産写真展や青少年交流などを、さらには植樹などを行いました。

また、今年は江西と岐阜県との友好提携30周年という重要な年を迎えます。双方は、今年、一連の記念行事を行う準備をしています。そして、双方の友好交流をさらに深めようと話しています。

江西と北海道は似たところがあると思います。土地は肥沃であり、農業が発達し、また風光明媚でありまして自然の資源が豊かです。中国の銅の都、そしてタングステンやレアアースの王国とも言われています。

今、我々は航空、情報産業、新エコカーや新素材、バイオ技術などの産業を発達させようとしています。我々としては、北海道を含む、また岐阜や岡山を含む日本の自治体と突っ込んだ交流をさらに進めていきたいと思っています。我々の努力で中日友好の交流と協力はもっと高めていくことができると信じています。

皆様、最後に私は偉大なる毛沢東が江西省について詩を書いたことがありますので、それを引用して終わりたいと思います。「青い山を踏む 人いまだ老いず 風景はこちら大変すばらしい」というものです。ぜひ皆様、江西省にお越しください。そして江西省の温かさ、魅力を感じていただきたいと思います。

緑の江西、そしてこのすばらしい江西は、開放された江西はきっと皆様にすばらしい印象を残してくれるものと思っております。

皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。（拍手）

## ○李小林中国人民对外友好協会会長

江西省、呉副省长、ありがとうございました。

時間の関係で、私と上田先生とで相談しました。もう意見交換はなしということで、この後は総括に入りたいと思います。

省長の皆様、知事の皆様、先ほど両国の省長、知事様は今回のテーマに従ってそれぞれ各県、省の経済・貿易、環境保護、観光、防災の面におきまして状況を紹介してくださいました。交流の成果と経験を共有することができまして、両地の今後の地方交流の方向性についても真剣に議論し、そして非常に多くの建設的な意見と提案が出されました。非常によい効果を得ることができました。

まず、双方はこれから地方間の省エネ、環境保護の面での協力を強化していく必要があるということに一致しました。

日本はこの分野におきまして非常に多くの経験を持っております。手を携えて協力し、相互を補完し、そしてこの分野の事業を発展していくことができると思います。

それからまた、観光分野の協力を進化する必要があるというふうに思いました。そして2020年と2022年にオリンピックとそれから冬のオリンピックを開催することになりましたので、非常によいチャンスを与えてくれました。これから民間の相互理解と友好感情を増進し、そして多くの取り組みをしていきた

いと考えております。

また、両国は防災・減災の面での協力を強化する必要があるということで一致しました。四川大地震10周年、東日本大地震7年目ということであります。私たちは忘れておりません。四川の地震の後、日本が第1時間帯にその支援の手を差し伸べてくださいました。中国も同じように、東日本大地震の後に多くの救援物資を提供しました。日中ともに自然災害が多発の国であります。そして災害も種類が多いということで頻度も高いということですので、この分野の協力を進めていくことが非常に必要であるというふうに思っております。

そして、私のほうからちょっとお話をしたいと思いますが、日本の知事さんの歌のレベルが私たちよりも上だと思えます。あるいは中国の省長さんがその才能を発揮できなかったかもしれません。この面での交流を進めていきたいと思えます。

そして、今日は李克強総理とそれから安倍総理がこのフォーラムに出席してくださいまして、つまり第3回日中知事省長フォーラムに出席してくださいまして、この8年間日中の交流は非常に冷たい関係というんでしょうか、いい関係ではありませんでした。しかし、今は雨の後の非常に晴れ晴れとしたそういうお天気になりまして、日中協力の新しいページというんでしょうか、新しい時代を迎えることができました。このフォーラムはもう4年間中断しておりました。次回はなるべく早いうちに開催できればと思っております。各省長は皆様が中国に来ることを歓迎いたします。そして、さらに地方交流の面でのことにつきまして討論し、そして機会を求めていきたいと考えております。それで健全で非常によい発展を進めていきたいと思えます。

私は、対外友好協会の会長としまして今回日本知事会と一緒にこのフォーラムを開催することができましてうれしく思います。足りないところがあったかもしれませんが、いい意見がありましたらおっしゃってください。以上です。（拍手）

次は、上田知事にもご発言、総括をお願いいたします。

### ○上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）

本日は中国側の省長の皆様には遠路はるばる日本、北海道にお越しをいただき、また貴重な時間を日本の知事の皆様にも北海道にお越しをいただきましてありがとうございました。

進行のまずさによって意見交換の時間がレセプションのほうに回るということですので、意見交換の場がレセプションに回ると食事の時間はどうなるのかというこういう気持ちもないわけはありませんが、食事をとりながらまた意見交換ができればとも思っております。

若干のまとめをさせていただければ、日本国と中華人民共和国の長い歴史の中で、いいときもあれば悪いときもあった。しかし、それぞれの国の立派な指導者の方々がそれぞれにとってもいい影響を与えていきましたし、それぞれ日本は7世紀、8世紀のあたり、日本の国家をつくるときの唐の歴史や隋の制度などを大変

学びました。その骨格は今でも生きております。

また、日本が先に近代化が進んだ中で、中国は日本に学ぼうとする機運が高まった時代もございました。不幸な歴史もございました。しかし、同時に県、省という立場の中では、大変その中でもまた先ほどご紹介がありました寒さに強い稲を日本の先人が一生懸命中国のために努力をしたお話、またそれぞれ技術をお互いにもたらした関係、大変友好の歴史というのはそれぞれの地域で積み重ねて、また学び合いながら歴史を積み重ねてきたということもそれぞれの知事から、また省長からご報告があって、まだまだお互いに知らないこともたくさんあるんだなというようなこともまた思いました。

いずれにしても、李克強総理が言われましたこれから極めて高いレベルでのイノベーションの時代が来るといふところの中で、両国がお互いに協力をし合うことは両国のためのみならず世界のためにもなるという確信のもとで、我々省と県がそれぞれしっかり友好を重ねることは省と県のためのみならず日本と中国のためにもなる、このような思いで今後ともおつき合い、交流を進めていきたいというふうに考えておりますので、引き続き今後ともよろしくご指導、またご交誼、ご協力を賜りたいと思っております。

本日は本当にありがとうございました。（拍手）

#### ○李小林中国人民对外友好協会会長

それでは日中知事省長フォーラム、ここで閉幕いたします。（拍手）

#### ○司会

ありがとうございました。両国会長に取りまとめをしていただきました。

以上をもちまして第3回日中知事省長フォーラムを閉会いたします。

引き続きレセプションを行います。省長、知事の皆様は係の者が会場までご案内いたします。

なお、ご利用になった同時通訳のレシーバーですが、関係者の方は座席の上に置いてご退席ください。報道関係者は会場を出たところでレシーバーの回収をいたしますので、ご返却をお願いいたします。

本日はご参加くださいますことありがとうございました。

## 2. 歓迎レセプション

【日 時】平成30年5月11日(金) 12:10~13:30

【場 所】札幌パークホテル3階「パークホール (A)」

【参加者】(日本側)

上田 清司 全国知事会会長(埼玉県知事)

達増 拓也 岩手県知事

吉村 美栄子 山形県知事

川勝 平太 静岡県知事

石井 隆一 富山県知事

平井 伸治 鳥取県知事

阿部 啓二 北海道副知事

古尾谷 光男 全国知事会事務総長

(中国側)

李小林(りしょうりん) 中国人民对外友好協会会長

宋敬武(そうけいぶ) 中国人民对外友好協会副会長

許勤(きよきん) 河北省省長

王文涛(おうぶんとう) 黒竜江省代理省長

呉忠琮(ごちゅうぎょう) 江西省副省長